

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 教育学部	3
2. 教育学研究科	6
3. 教職開発専攻	8

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
教育学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教職開発専攻	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 教育学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 5)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 双方向遠隔授業システム（TV 会議システム）の活用による、教員研修と融合させた教員養成の取組は、奈良県内の若手教員が行う勤務校での授業や、勤務校の教員・指導主事・奈良教育大学教員による研修シーンを、双方向遠隔授業システムを用いて奈良教育大学に配信し、学生がリアルタイムでその授業や研修に参画するものである。これは「本学の3つの柱」（大学の特色）（1-2頁）に掲げている「教員養成と教員研修の融合」の取組の一つであり、平成29年度文部科学省のグッドプラクティスにも採択された。
- 奈良県教育委員会との「連携協力に関する協議会」の下に設置した専門部会（高大接続部会）において、未来の奈良県の教育を担う資質・能力と教職への強い意欲を持った高校生を、高校段階から育成するプログラムについて検討を行った。その結果、平成30年度から奈良県教育委員会と奈良県内の教職課程を持つ大学とともに「奈良県次世代教員養成塾」（前期プログラム）を開講し、全10回の講座のうち4講座を奈良教育大学が担当している。この取組は、平成30年度文部科学省のグッドプラクティスに採択され、新聞（全国紙）に掲載されたり、他大学や他教育委員会から視察を受けたりする等、全国的に課題となっている教員志望者の減少を改善する先駆的な取組として注目されている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 就職支援室では、前年度に教員就職した卒業生の学校を訪問し、管理職との面談を通じて、校務分掌、職務の状況、新規採用者の資質・能力の最近の傾向、学校現場から教員養成について奈良教育大学に求められるもの等について意見を聴取し、在学生や大学教員にフィードバックしている。

2. 教育学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 7)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 7)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 奈良県派遣の現職教員に対しては、従前、2年次は置籍校に復帰していたものを、平成27年度入学者より奈良県立教育研究所に勤務し、大学院での学びや研究成果を常に奈良県の教育行政や教育実践に提供するシステムに変更した。このシステムは全国でも先駆的なものとなっている。これにより、通常の勤務と研究を両立させる難しさを克服するとともに、理論と実践の往還や、奈良県の教員研修に研究成果を還元することに寄与している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

3. 教職開発専攻

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 9)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 9)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 奈良県派遣の現職教員に対しては、従前、2年次は置籍校に復帰していたものを、平成27年度入学者より奈良県立教育研究所に勤務し、大学院での学びや研究成果を常に奈良県の教育行政や教育実践に提供するシステムに変更した。このシステムは全国でも先駆的なものとなっている。これにより、通常の勤務と研究を両立させる難しさを克服するとともに、理論と実践の往還や、奈良県の教員研修に研究成果を還元することに寄与している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。